＜株式会社エフエム東京　第 507 回放送番組審議会＞

１．開催年月日：令和 6 年 4 月 2 日（火）

２．開催場所：エフエム東京 11 階大会議室

３．委員の出席：委員総数 5 名（社外 5 名　社内 0 名）

◇出席委員（5 名）
ロバート キャンベル　委員長
佐 々 木 俊 尚　委員　　松　田　紀　子　委員
山　口　真　由　委員　　柴　崎　友　香　委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（6 名）
唐島 夏生　代表取締役会長
黒坂 修　　代表取締役社長
内藤 博志　取締役編成制作局長
宮野 潤一　編成制作局次長 兼 編成部長
山領 由紀　編成制作局制作部長
原田 洋子　編成制作局報道・情報センター部長

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当　内藤放送番組審議会事務局長】

４．議題：番組試聴　（55 分／ダイジェスト 41 分）
エフエム山口・TOKYO FM 共同制作 金子みすゞ詩作 100 年記念特別番組
『見えぬけれども あるんだよ』
2024 年 3 月 14 日（木）20：00～20：55　放送

≪議事内容≫

議題 1:最近の活動について

■2024 年 4 月改編（主な新番組）

当社コアターゲット聴取率 13 期連続トップ、個人全体も 12 期連続トップという現状に甘んじることなく、より多くのリスナーにより長い時間聴いていただくために、現行タイムテーブルを強化していきます。キーワードのひとつは“消齢化”。年齢ではなく、価値観でつながる時代と言われていますが、コアターゲットを中心に、幅広いリスナー層と価値観で共感しあえる新出演者・新番組を投入していきます。

テレビ「モーニングショー」での歯に衣着せぬコメント力で幅広い世代から支持されている玉川徹の新番組『ラジオのタマカワ』(木曜 11:30～13:00) がスタート。元テレビ朝日社員の玉川徹がフリーとなって初のレギュラー冠番組となります。アシスタントにはフリーアナウンサーの原千晶を起用。平日 14:55-15:00（5 分ベルト）では、7 人組男性アイドルグループ・IMP.（ｱｲｴﾑﾋﾟｰ）の新ベルト番組。そして、午後ワイド『THE TRAD』月曜・火曜の稲垣吾郎の新パートナーに、元 TBS アナウンサー・山本里菜が決定。

また、『SCHOOL OF LOCK!』の LOCKS!枠には昨年大ブレイクを果たした新しい学校のリーダーズ、業界注目の若手俳優・宮世琉弥(みやせりゅうび)が新任。金曜 17:00-17:25 は、話題のドラマ「不適切にもほどがある」での演技も光った人気女優の仲里依紗、金曜 19:00-19:30 は工具好きとして多くのメディアでも取り上げられている高野倉匡人、日曜 12:00-12:30 は演技力と美声で女性ファンを中心に多くの支持を集める声優・俳優の津田健次郎が出演する AuDee プレミアム連動の新番組がスタートします。

▲仲里依紗

▲津田健次郎

▲新しい学校のリーダーズ

議題２：番組試聴

【番組名】

エフエム山口・TOKYO FM 共同制作 金子みすゞ詩作 100 年記念特別番組
『見えぬけれども あるんだよ』

2024 年 3 月 14 日（木）20：00～20：55　放送

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、3 月 14 日（木）に放送したエフエム山口・TOKYO FM 共同制作 金子みすゞ詩作 100 年記念特別番組『見えぬけれども あるんだよ』です。

『赤い鳥』、『金の船』などの童話童謡雑誌が次々と創刊された大正時代末期の童謡詩人・金子みすゞ。「若き童謡詩人の中の巨星」と賞賛されながらも、当時の社会事情と運命の糸が複雑にからみあい、26 歳で自らこの世を去りました。

2023 年に金子みすゞが詩作を始めてから、100 年を迎えました。番組では、金子みすゞの詩をもとに自身でも歌をうたう坂本美雨が、金子みすゞのふるさと・山口県長門市や金子みすゞ記念館を訪ね、彼女のルーツや生涯を辿りました。

【委員の意見および社側説明】
（「○」委員意見／「■」社側意見）

○金子みすゞは、これまでに何度も取り上げられてきたが、今回は詩作 100 年ということで、どのように取り上げるのか大変興味深く聴いた。近年は、詩人や歌人他のジャンルもそうだが、戦前にはあまり注目されることのなかった、文化を作って来た女性たちが再評価されたり、今改めて本が編纂されたりしているので、そのような流れもあるのかと思いながら聴いた。山口の放送局と共同制作ということで、海の音などが入っていたのがとても良かった。ラジオは自然の音で繊細な部分を伝えられるのだと思った。

○金子みすゞというと、「みんなちがって、みんないい」という言葉が一人歩きしている部分があって、全体を知らないまま、そこだけがキャッチーに使われていることも多いので、それを読み直す部分があったのがとても良いと思った。特に、初めてその詩に触れた子どもの視点から、ずっと長く金子みすゞを読んできた人が、また新しい発見をするのがとても良かった。私自身もまた金子みすゞの詩を読み直したいと思った。

○館長の話がとても素晴らしかった。金子みすゞ記念館に行かないと分からないような状況を丁寧にすくい出しているのが良かった。ただ、私たちが知っている金子みすゞ以上でも以下でもなかったという気がして、もう一つ深く掘り下げるならどうしたらよかったのだろうか、と思った。

○そこまで金子みすゞをしっかりと読んでこなかったので、「こんな人だったんだ」と思いながら聴いた。坂本美雨氏が山口を訪れて、金子みすゞが育った地域の風土に触れていたが、生きとし生けるものに対して、クジラを狩りながらもクジラに対して供養をするみたいな文化と、街全体に今でも金子みすゞさんが生きているかのようだというところが伝わって来て大変良かった。こういう風土の中で、非常に早熟な若い才能みたいなものが生まれたということが分かった。

○あまり詳しく金子みすゞを知らないが、夭逝した若い人っていうのは非常に純粋な結晶体で、いろいろな人がいろいろな角度からその人を解釈して、自分の主張の方向に持っていくことが多いと感じることがある。ウクライナ侵攻などをここで入れる必要があったかな、という疑問が残って、聴く側として何かが損なわれたような感覚があった。

○この番組を聴いてまず思ったのは坂本美雨氏の声が素晴らしいなと。「ディアフレンズ」という毎日の帯番組をもう 10 年以上つとめているが、耳にするたびにいわゆるラジオパーソナリティとは全く違う存在だと思う。儚げで危うくて、声に自

信満々感がない。ラジオパーソナリティというのは、基本的に自信ある声の人が圧倒的に多い。その中であの儚く自信のない感じが特殊才能だなと。その一方で、儚いんだけど、滑舌がよく聴きやすい。これは唯一無二なのではないかと思う。今回の金子みすゞのナレーションは特にハマっている。金子みすゞは、すごい才能をもちながら、若くして夫から病気をうつされ、そして子どもを取り上げられ、地方で埋もれたまま夭逝していく。その儚い悲しい感じと坂本美雨さんの声質としゃべりが非常にマッチしていて、このキャスティングは本当に素晴らしいと思った。

○この番組は、果たしてドキュメンタリーなのか、それとも何なのかということが気になった。多分ドキュメンタリーだと思うが、日本でドキュメンタリーというのはイコール「NHK スペシャル」のような構成と認識されている部分がある。基本的には美しい映像に関係者のインタビューを重ねることによって構成されていて、完成度は極めて高く面白いが、その影響力がとても強く、日本のドキュメンタリーはイコール NHK スペシャル（と同じ構成）になってしまっている現状がある。対して欧米のドキュメンタリーは、1 つの作品の中にインタビューもあるが、アニメやドラマ部分を盛り込んだりしている。さらに現場のレポートでは、客観性を無視して、例えば戦場では、その中を死なないように必死に逃げ回るレポーター自身の姿を第一人称で描いていく。こういった構成が欧米のドキュメンタリーの主流になっている。そういう視点で今回の番組を聴くと、日本的なドキュメンタリーの作りになっていると感じる。前半の坂本美雨さんが現地の山口県の港とかを歩いている感じのところが、すごく没入感があって素晴らしい。後半インタビューのヤザキ氏の話もとても面白いので、例えば、没入感のある物語性みたいなものを打ち出した方が、日本のラジオがテレビとも違う、新しいドキュメンタリーの形を提案できるかもしれないと思った。聴取者を没入させたり、ラジオにしかできないドキュメンタリーの形を模索してほしいという期待を込めて。内容としての感想は、とても素晴らしい番組で大変満足感があった。

○金子みすゞが亡くなる最期のところ、私は知識があったが知識がない人が、子供を残してなぜ死んだのか、子供が遺体を発見したのか、などいろいろ想像をしてしまうのでナレーションでフォローがあってもいいように思った。

■貴重なご意見を頂いた。今後の番組作りの参考としたい。

6.議事内容を以下の方法で公表した。
① 放送:番組「ドライバーズインフォ」
4 月 27 日（土）5:55～6:00 放送
② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き
③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 https://www.tfm.co.jp/